

令和6年度 第1回舟橋村教育委員会定例会 会議録（概要）

期 日：令和6年4月26日16：30～

場 所：舟橋村役場 視聴覚室

出席者：土田教育長、堀田職務代理者、野村委員、大上委員、中本委員
松本事務局長、前原社会教育係主幹、金山社会教育係長、平澤学校教育係主任

< 議 題 >

1 3～5月行事等の報告 (別紙1)

2 社会教育事業について (別紙2)

3 その他

(1) 教員減による部活動への影響について

- ・ 中学校が学級数減により、教職員数も減となり、顧問ができる教員も減となっているが、部活動への支障はないのか。

→ 現状として、中学校長より、話は上がってきていない。

昨年度、顧問をしていた教員はほぼ残留しているため、問題は出ておらず、また、吹奏楽部やテニス部等、部活動指導員がいる部活については影響なし。指導者等の補充をしなくても対応できている。

ただし、今後、教員の働き方改革の問題もあるので、部活動指導員の有効活用が重要となる。

今年度の予算では、昨年度より1名増で予算をとってはいるが、部活動指導員の確保が課題。

現在、陸上部は、常願寺川公園スポーツクラブに依頼する予定。

バスケ部もクラブ化を進めている。

- ・ 消滅可能性自治体が県内にも複数ある中で、残るであろう舟橋村は今後どのようにして部活動を継続していくのか。

→ 大きい市町村に拠点校を設置して取り組む流れになっていく。

現時点では、県が市町村単位というしほりを設けているため、動けない。

今後、くくりが広がれば、中新川郡や富山市等の拠点校での部活動が可能になっていくのではないかと考えている。

ただし、その場合、毎日通うための交通手段の問題が発生する。

消滅しないであろう舟橋村がどのタイミングでまとまっていくのか。

- ・本村の中学校の部活動も競技によってはすでに成り立たなくなっている現状があるのではないか。
 - 特に野球は厳しい。立山や上市も選手がおらず、拠点校制にしないと練習も試合もできない。
 - 村だけの問題ではなく、近年しぼりが外れるのではと読んでいる。
 - 他市町村とタッグを組んでいく流れを見据えて動いていきたい。
 - いくつもの中学校を持つ市町村はやりやすいが、1校しかない村は厳しい。
- ・他市町村のクラブ等に通う部活動生は交どのような交通手段を使っているのか。
 - 現在クラブチームに通っているような子は、保護者送迎がほとんどである。
- ・現在、共働き家庭が多い中、難しい部分もあると考えられるため、拠点校化の際には、交通手段の確保も一緒に考える必要がある。村内でも上がっている高齢者の交通手段の問題と絡めて検討する必要があるのでは。
 - 3市町村で拠点校を設けたとして、順次乗り合わせるバス等では、部活の開始時間が遅くなるという問題も発生することが予想される。
- ・他市町村の部活動やクラブ情報も集めてほしい。

(2) 事務連絡

- ・次回 5月23日(木)に開催